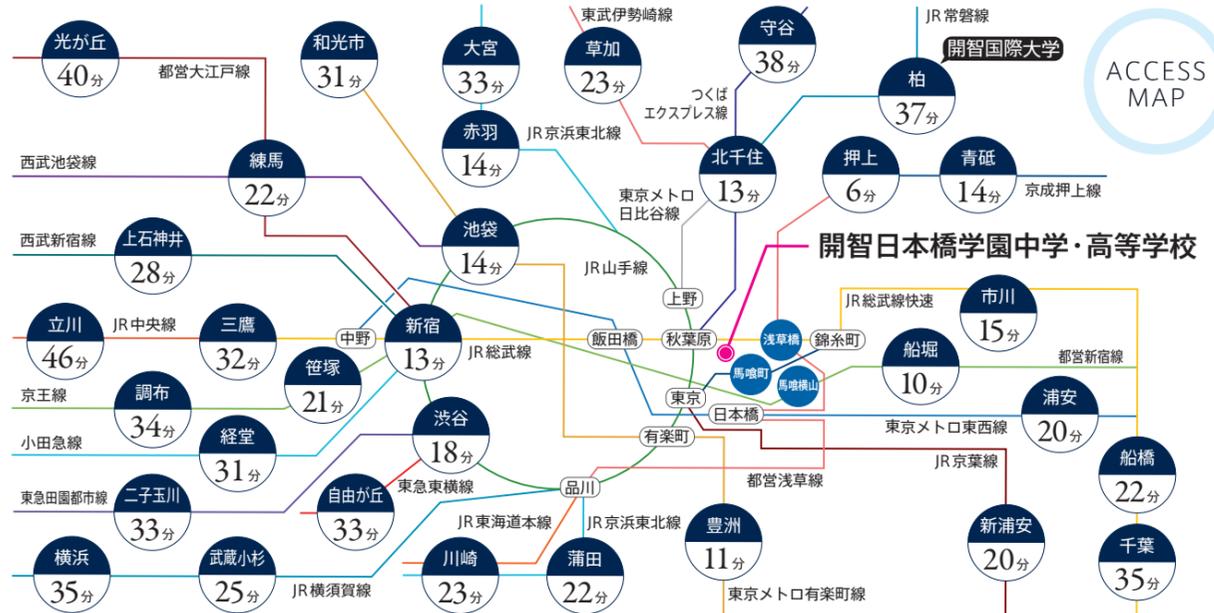




国際バカロレアMYP/DP 認定校
International Baccalaureate® | Middle Years Programme | Diploma Programme



- JR総武線・都営浅草線「浅草橋駅」徒歩3分
- JR総武線快速「馬喰町駅」徒歩3分
- 都営新宿線「馬喰横山駅」徒歩7分
- JR山手線・京浜東北線・総武線/東京メトロ日比谷線/つくばエクスプレス「秋葉原駅」徒歩10分 ※乗り換え時間等は含みません

KAICHI NIHONBASHI GAKUEN JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

開智日本橋学園中学・高等学校



開智日本橋学園中学・高等学校

Kaichi Nihonbashi Gakuen Junior & Senior High School

〒103-8384 東京都中央区日本橋馬喰町2-7-6 TEL : 03-3662-2507 FAX : 03-3662-2506

■ 開智学園グループ

- | | |
|--------------------|-------------------|
| [小学校] 開智小学校(総合部) | 開智望小学校 |
| [中学校] 開智日本橋学園中学校 | 開智中学校 |
| 開智未来中学校 | 開智望中等教育学校 |
| [高等学校] 開智日本橋学園高等学校 | 開智高等学校 開智未来高等学校 |
| [大学] 開智国際大学 | |

SCHOOL GUIDE 2024-2025

<https://www.kng.ed.jp>

開智日本橋学園とは

(Mission)

Kaichi Nihonbashi Gakuen strives to create a learning environment where students can develop the quintessential skills needed to become and succeed as global citizens.

開智日本橋学園の合言葉

自ら考え、判断し、主体的に行動する

- (学 び) 教員から一方的に教わるのではなく、生徒が自ら考え主体的に学ぶ探究型の学びを実践します
- (行 事) 実行委員会が中心となり、企画立案から事前の準備、当日の運営に至るまで、生徒が自らの手で創ります
- (学校生活) 自分たちの学校はどうあるべきかを自分たちで考えた上で、必要な決まりやルールを生徒自身が創ります

開智日本橋学園の教育方針

平和で豊かな国際社会の実現に貢献するリーダーの育成

- (社会貢献) 自分ならではの確かなスキルを身につけることで、将来多くの人々の役立つような人材を育てます
- (リーダー) 様々なことに自分の意思で挑戦することで、幅の広い心の豊かな、誰からも信頼される真のリーダーたる資質を持った人材を育てます



校長挨拶

「自分で考え、判断し、主体的に行動する」—これは開智日本橋学園の合言葉です。教員に指示・命令されて動くのではなく、次に何をしたいのか・すべきなのかを自分で判断して行動することを生徒たちはとても大切にしています。

現代の子供達は人工知能やロボットが浸透し、変化が激しく次に何が起るのかを予測することが難しい社会に向き合っていかなければなりません。今の時代の学校教育の使命は、人工知能やロボットを使いこなしつつ主体的に問題解決することができる人材を育成することだと思います。しかしながら日本の教育は依然として教員が指示・命令して、それに生徒が従うという構造が中心となっており、言われたことをきちんとこなす能力、すなわち人工知能やロボットが得意とする分野を育てることが主眼となってしまっています。いくらロボットが得意とする分野を育てても、本家本元のロボットにかなうはずがありません。開智日本橋学園が一番の課題としているのは、ロボットや人工知能に負けない能力—突発的な事態に対応できる柔軟な思考力や判断力、課題解決力、そして新しい技術を自ら創造・開発していくクリエイティブな発想力を育てていくことです。その第一歩として、まずは、自分の行動を自分で決め、そして責任を自分で負うというマインドを育てること、これをとても大切にしているのです。

開智日本橋学園では、学校行事、生徒会活動、部活動、その他様々な学内での活動が生徒自身によって、主体的に企画・立案・計画され、運営されています。教員は生徒たちの動きをよく見て適宜助言を与えますが、活動の主体はあくまでも生徒という形を貫いています。教員がお膳立てをして生徒はそのレールに沿って歩くだけでは、得られるものはごくわずかです。生徒自ら考えて創り出していった活動は、成功した時のリターンが限りなく大きくなるし、たとえ失敗してもその失敗に対して適切なアドバイスをすれば、それは必ず生徒たちの糧になると私たちは考えています。

開智日本橋学園では授業においても、生徒が教員に一方的に教わる受け身の学びでなく、「生徒自らが活動する探究型の学び」に主眼を置いています。教員のガイダンスのもと基礎知識や考え方を自ら学びます。探究型の授業・プロジェクト・フィールドワーク・哲学対話の授業等では、基礎知識を生かして自らの興味関心と関連させながら「主体的に学び」「ディスカッションなどで知性を高め合い」「プレゼンや論文等で自らの考えを発信」していきます。

また、今日の社会では必須といえる英語力育成に関しても、7カ国からの外国籍の教員や海外経験の長いバイリンガル教員を

全教員の約30%配置して「使える英語教育」を実践しています。英語以外の科目の授業やホームルームも英語で行い、職員室や廊下で普通に英語で会話が行われる環境です。座学に終始せず、大学や社会に出た際に国内外で「英語を使って」活躍できる人材を養成する、インターナショナルスクールに近いシステムがあることも本校の大きな特徴です。

こうした「生徒主体」「探究型」の教育を高いレベルで実践するために、本校は国際バカロレア (IB) を取り入れた教育を行っており、MYPおよびDPの認定校となっています。IBのMYPの教育プログラムは1~4年次においてLC、DLC、GLCの全てのコースで実践されています。IB教育の特徴は、単なる知識の修得でなく、自ら進んで考え探究し表現しながら学んでいくものです。IBの学びは、世界の教育学者や実践者の叡智を結集して構成した最先端の教育カリキュラムです。グローバルな視点を念頭に置きつつ、多様なものの見方や考え方を学びます。さらに、学際的な学びも重視することで、生徒が実社会との結びつきも意識して学ぶことができ、学ぶことの意義を感じやすいカリキュラムとなっています。この教育の考え方は、まさに本校の目指す探究型の学びに他なりません。

本校の教育にIBのプログラムを取り入れることで、本校の指導理念である「生徒が自ら学ぶ探究型の学び」の効果が飛躍的に高められています。国際標準のプログラムであるIBは、海外の大学への進学の可能性を広げるものではありませんが、探究ベースの深い学びを実践するという点では国内の大学への進学のみを考えている生徒たちにとっても大変効果のあるものといえます。単にテストのため、受験のための勉強でなく、一生使える本物の学力、そして一生学び続けるという強い意志を育てていく—これがIBを取り入れた開智日本橋学園の教育です。

開智日本橋学園では、「夢」ということばをとても大切にしています。私は毎年、入学式において新入生一人一人が行う「夢宣言」を聞くことを楽しみにしています。新入生がどのような夢を持っているのか、開智日本橋でどのようなことをしてみたいのか、一人一人の言葉を胸に刻んでいます。夢に向かって挑戦し、突き進む。自分で考え、判断し、主体的に行動する。開智日本橋学園で大切にしているこうした姿勢を貫き通し、成長していけば、夢はいつか実現するはずで、生徒・教員が一緒になって一人一人の夢の実現をサポートしあう「学びの共同体」、開智日本橋学園で皆様をお待ちしています。

校長 近藤 健志

略歴 | 1968(昭和43)年、東京生まれ。幼少期をアメリカで過ごす。日本の中高を経て慶應義塾大学法学部卒業後、米国ゲートマス大学経営大学院で経営学修士を取得。その後米国の2つの大学院と日本の慶應義塾大学大学院にて教育関連資格を取得。日本の銀行、米国の金融情報会社などでビジネスマンを経験し、37歳で愛知県の中高一貫校の立ち上げに参画。2016年3月に開智日本橋学園に赴任。英語、社会、IB科目「知の理論」を担当。教頭、副校長を経て2023年4月から校長に就任。

自ら学ぶ生徒を育成する 国際バカロレア教育

(Student Centered Learning through IB Education)

The Japanese curriculum and International Baccalaureate's pedagogy provide the opportunity to nurture proactive, international minded learners.

日本の教育の良さと国際バカロレアのノウハウを融合する

教育の指針

1. 探究型の学びの推進

生徒は「なぜ」を探究しながら自主的に学びを進めていきます。そして、友人・教員と議論を重ねることで、様々な学術分野を学ぶ意義と楽しさを実感していきます。国際バカロレア機構 (IB) のノウハウを取り入れた探究型の学びを通して、世界の多様な問題を解決するための深い思考力、判断力、行動力を育成していきます。

2. 探究型の学びの基となる知識教育の充実

探究型の学びは豊富な基礎知識がベースにあってこそ充実したものとなります。教員は生徒が学ぶ意義を実感し、基礎知識を習得するモチベーションが高まる授業を構成していきます。そして、基礎知識を習得するために必要な繰り返し学習も組み合わせながら、生徒の探究力、基礎学力を高める支援をしていきます。

国際バカロレア機構 (IB) MYP (中等教育プログラム)、DP (高等教育プログラム) 認定校

国際バカロレア教育は、「多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和的な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成」を理念として世界 158 の国・地域の約 5000 校で実施されています。日本国内では約 160 校の小中高プログラムが認定されています。本校は開智学園で培ってきた教育メソッドに国際バカロレア機構の豊富なノウハウを加えることで、日本の教育の良さを活かした本格的な探究学習を実践しています。開智日本橋学園は2年半の準備期間ののち、2018年6月にMYP (Middle Years Programme)、2018年7月にDP (Diploma Programme) のIBワールドスクール認定校となりました。



国際バカロレア教育の教育の最も重要な点は、学習者が主体的に探究の学びを進めていくことです。体系的に学ぶ「学びの方法 (Approaches to Learning: ATL)」のスキルを活用し、各教科の効果的な学びを深めていきます。生徒がこうした「学び方」のスキルを使って自ら考え判断しながら学習を進められるように、教員はIBのガイドラインに沿った「指導のアプローチ」を実践しています。教員はIB認定校の一員としてIB公式ワークショップや校内研修に参加しつつ、他のIBワールドスクールの先生方とも意見交換しながら「教え方」のノウハウを高めています。生徒は学んだスキルや知識を活かして国際的な視野を広め、奉仕活動や学際的な探究活動 (パーソナルプロジェクト) につなげていくことが期待されています。

日本の学校の良さと国際バカロレア教育の融合

本校はIB認定校であると同時に日本の学校教育法第1条で規定されている一条校なので、日本の学習指導要領とIBが定める要件の双方を満たす教育課程を実施しています。日本の一条校に求められる知識を、IBや開智メソッドの学び方を活用して習得していくのが本校の教育の特徴です。こうして自ら考え判断しながら身につけていく基礎と応用を兼ね備えた学力は、国内外の大学入試や大学での学びへの最適準備とと考えています。また、主体的に育まれた知識やスキルは変化の激しい国際社会で活躍していくなかで発揮されるものと期待しています。

国際バカロレアの特徴

I 概念学習による 深い思考と知識習得

「ちょっと抽象的なテーマ (概念)」をきっかけに、「なぜ」「どうして」を探究しながら、クリティカルシンキング力や幅広い知識を習得していきます。

■探究テーマ例：

- 【中1英語】ベトナム人もしくはアメリカ人に対する「効果的な」英語での自己紹介はどのようなものか？
- 【中2国語】基本的な漢字や文法を覚えていくために、どのような方法が自分には効果的か？
- 【中3理科】科学技術の発展は現代社会の課題の解決にどのように貢献するか？今学期に学んだ理科の知識を活用しながら論じなさい。
- 【高1社会】自分の社会観を反映して日本の国家予算を編成するとしたら、何をどのように変えていくか？

II 学び方を活用する

生徒が主体的に学んでいくためには自ら学習を進めることができる学び方を習得し活用する必要があります。IBの学習プログラムでは教科横断的に活用できる「学びの方法 (Approaches to Learning: ATL)」を学び、活用していきます。

■ATL活用の例：

- 【思考スキル】理科の実験を計画・考察するために「帰納法的思考」を活用する。
- 【リサーチスキル】歴史的出来事の歴史家の解釈を評価するために、文献やインターネット資料の信頼性を確認する。
- 【コミュニケーションスキル】国語の授業で仲間が小説の解釈について発表する際に、効果的な質問を聞き深い考えを引き出す。
- 【社会性スキル】行事を計画する際に一人一人の仲間が強みを発揮できるように役割分担を議論し決定する。
- 【自己管理スキル】多くの宿題や課題を期日通りに完了させるために自分の予定と時間管理を行う。

III 発信力重視： 「議論」「プレゼン」

ひとつの答えのない問いに対して調査探究学習を行なった成果を発信していきます。仲間とディスカッションしながら考えを発展させ、エッセイやプレゼン等の発信の機会を多く作ります。

■発信のテーマと方法例：

- 【中2国語】途中まで読んだ小説の続編を自分オリジナルのものとして執筆する。
- 【中3公民】自分が住む地域を活性化させる新ビジネスを考え、その会社のホームページを製作し発表する。
- 【中3数学】これまで学んだ数学知識を活用して実社会の問題を分析し、その成果を発表する。
- 【高1体育】自分たちで決めたテーマに基づき創作ダンスを構成し、演技する。

国際バカロレアの実践

I 【指導された自学】 教員のガイダンスに基づき 基礎知識を習得する家庭学習

II 【授業】 知識の解説・応用、議論、 プレゼン

III 【評価・成績】 明確な評価基準 (ルーブリック) に基づく探究課題や試験

IB MYPクラスでは、主体的に学ぶ姿勢や探究心を育むために学習者中心の授業を進めています。IBの定める研修を受けた教員は、学びの「プロデューサー」「ファシリテーター」として学習の方向性を設計するとともに、生徒へのきめ細かいサポートをしています。また、生徒同士で協力し合えるクラスの文化作りを支援します。IB MYPクラスの生徒は、継続的に課せられる課題を確実にこなすことが期待されており、家庭学習がとても重要な位置付けとなります。宿題は、授業で行う応用やディスカッション・プレゼンのための基礎基本となるとともに、主体的な学習習慣を身につけることにもつながります。



「当校のMYPプログラムは、二つのことを大切にしています。第一に学びは一生続くプロセスであること、第二に、生徒・教員全員が学習者で、学校のコミュニティは互いの学びを高め合う『学びの共同体』であることです。生徒はこの学びの共同体を積極的に活用して意見をぶつけ合い、知的好奇心を刺激しあっていって欲しいと考えます。」
(MYPコーディネーター・理科・多羅尾沙織)



6年間の主体的な学び

(Story)

The goal of KNG's six year curriculum is to provide opportunities for students to learn how to learn so that they become lifelong learners.

「主体的」に学ぶための「学び方」を身に付けていきます

ATLスキル

生徒が主体的に学んでいくためには自ら効果的に学ぶを進めるための「学び方」を習得することが重要です。当校のカリキュラムでは国際バカロレアの「Approaches to Learning (ATL)」(学びの方法)の方法を取り入れています。生徒は主に1~4年の間にホームルーム、各教科授業、探究プロジェクトや行事において「学び方」を体系的に学び、自ら学び判断するスキルを身につけていきます。

ATL(学びの方法)の種類

- 【コミュニケーションスキル】 効果的に自分の考えを発信する方法(プレゼン)だけでなく、ディスカッション、傾聴、書面での発信スキル
- 【思考スキル】 クリティカルシンキング(批判的思考)や創造的思考等、様々な考え方のパターンや発想方法を活用するスキル
- 【リサーチスキル】 基礎知識を習得したり独自の調査探究をする際に、効果的に情報を収集、選別、検証、活用、分析するスキル。
- 【社会性スキル】 良好な社会関係を築き発展させ、他者とのチームワークを効果的に推進するスキル
- 【自己管理スキル】 いつまでに何をするといった時間・予定管理スキルのみならず、自分の感情やモチベーションを管理するスキル

国際バカロレアとは  p.3,4	コースを知る  p.7	探究・フィールドワークとは  p.13,14
パーソナルプロジェクト S&Aとは  p.15,16	生徒主体の行事とは  p.17,18	部活動を知る  p.19,20
5・6年間の学びを知る 国際バカロレア DP p.23,24 国立系・医学系・私立系 p.25 卒業生の声 p.26		



学びの共同体

(Courses)

Interdisciplinary learning connects academic disciplines so that students can apply their learning to real life situations.

学びが実社会と繋がっていることを体感します



開智学園では、さいたま市に中高一貫校を設立した当初から探究型の学びを導入し、私自身も11年間、一貫部での指導を行って参りました。そのノウハウをこの開智日本橋学園中学・高等学校でも引き継ぎ、そこに国際バカロレアの教育手法を加味した新しい教育を目指しています。自ら進んで深く考える探究型の学びで基礎学力の定着を確実なものにし、獲得した知識の応用や議論、プレゼンテーションを行うことで創造力や発信力を育てます。また、どのコースでも学際的な学びを通じ、実社会との結びつきの視点をもつことで学ぶ意義を理解していきます。

(教頭・社会科 池田 優剛)

各コース概要

本校における1年次から4年次までの各コースは、すべて文部科学省の学習指導要領に準拠して学習内容を編成し、IBのMYPプログラムの方法論に則って学びを進めていきます。



LC

中1、中2では日本語で各教科での探究型の学びを実践しながら主体的に考え、判断する基盤を育むことを目指します。徐々に「英語で」学ぶ力も鍛え、中3には美術や技術等の実技科目の授業を英語で実践していきます。

LCコース 3年次時間割例(青地は英語で行う授業)

	月	火	水	木	金	土
1	公民	公民	解析	英語	情報	代数
2	生物	英語	保健	化学	生物	国語
3	美術	国語	英語	代数	英語	化学
4	国語	国語	技術	英語	解析	代数
5	解析	英会話	体育	歴史	哲学対話	
6	LHR	歴史	体育	代数	音楽	

LCは入学時に日本語を中心としつつも、段階的に英語を指導言語とする授業を受けていきます。実技教科を中心に英語で学び、習得した英語をアウトプットする機会を設けています。

DLC

4年次終了時まで幅広い教科で日本語でも英語でも探究型の学びを実践することを目指します。バイリンガル担任のもと、1年次途中から英語でホームルーム活動を実施し、総合、美術、技術、英語、社会の授業も徐々に英語で学んでいきます。

DLC/GLC 3年次時間割例(青地は英語で行う授業)

	月	火	水	木	金	土
1	哲学対話	歴史	生物	解析	代数	英語
2	解析	化学	代数	生物	英語	化学
3	公民	国語	美術	情報	国語	解析
4	歴史	英語	音楽	技術	公民	国語
5	公民	英語	代数	国語	体育	
6	LHR	国語	英語	保健	体育	

GLC/DLCクラスは英語を指導言語とする授業を多く受けていきます。英語で学ぶことにより、日本語・英語両言語を通して学ぶ実用的スキルを身につけていきます。

GLC

帰国生やインターナショナルスクール卒業生等、入学当初から英語で学習できる生徒のためのコース。ネイティブ担任のもと英語でクラス活動を行い、総合、美術、技術、英語、社会の授業は英語で学びます。必要な生徒には日本語の特別サポートもを行い、日英両言語で探究学習できる資質を育みます。

学際的な学び

実社会の複雑な問題と日頃の学習成果を組み合わせ、日頃の勉強が何に役に立つのかを実感することで学習モチベーションに繋がります。我々が実社会の問題を理解し解決する時には一つの学習分野のみを活用して取り組むことはほとんどありません。学際的な学習は、知識がどのように分野を超えて共有され応用されるのか、また、イノベーションにつながるのかを実感するために大いに役立ちます。地球環境問題のようなグローバルな問題はしばしば学問分野を超えて展開されますが、生徒たちは学際的な考え方をすることで多様な価値観を理解しやすくなります。



事例①: Oxford Big Read Project: 美術×英語

生徒は英語の書籍を1冊選んで読み、ストーリーの魅力伝える英語ポスターを制作してOxford社のコンテストに応募します。物語の内容を表現するポスター画を描きますが、その際には美術の授業で学んだ著名な芸術家の画法を活用します。ポスター上の英語の推薦文は作品の面白さや作者の意図が伝わるような文章となるように工夫します。2教科で学んだ内容を組み合わせ一つのプロジェクトを完成させる、中学1年で行う楽しい取り組みです。



事例②: 物語の中に理科を読み解く 国語×理科

多様な角度から物事を捉える力をつけるために、文学作品を理科の視点を使って鑑賞する経験をしました。理科では暦を作る物語を科学的な知識を活用して読み解きました。文学作品では登場人物が正午の太陽の高度を観測する場面において地面に立てた棒がつくる影の長さを測っていました。「なぜこの観測をすると太陽の高さを求めることができるのか」と教員が問います。生徒達は、ペンを机の上に立てて実験するなかで、教科書の「南中高度」の定義を確認していました。文学作品を読み解くために理科の基礎知識を使うという経験を通して、「南中高度の変化を継続的にはかると、1年の暦をつくることできる」という生きた知識が生徒自身のものになっていきます。国語の授業では、平家物語の場面の中に気象の描写を見つけて状況を解釈しました。たとえば、なぜ那須与一が扇を射ようとする時に風は強めだったのかを山にあたる上昇気流から考察した生徒や、季節と水温の関係について考察し、水辺での戦いの厳しさを分析した生徒がいました。科学的な解釈のしかたを理科で学び、学んだ知識や視点を国語の授業に応用することで、学びを深めています。

学ぶための充実した「環境」

(Global Citizenship)

Kaichi Nihonbashi Gakuen aims to foster young leaders who are able to communicate and collaborate with like-minded individuals. Through ICT and an international school environment, learning becomes borderless and students are able to better communicate their ideas and take action on an international stage.

次世代のためのICT/英語環境がグローバル人材を育みます

ICT教育

開智日本橋学園でのICT教育は、これからの移り変わり行く社会で、より効果的にICTと向き合い、そして活用していく姿勢を育てるものと位置付けています。開智日本橋学園で重点的に取り組んでいる探究的な学びを深く追求し、より強固なものにするために活用していきます。本校の教育方針でもある社会に貢献するリーダー育成に必要な資質・能力を育むために、日常的にICTを活用できる環境を整えています。



学びの生産性を高める

開智日本橋学園では2017年より校内全体でG Suiteを導入しています。このG Suiteは学習者に必要なアプリケーションが、インターネット環境さえあればどこからでもアクセスできる統合型のオフィスアプリです。生徒一人ひとりがGoogleアカウントを持つことで、ICTについての理解やスキルアップを図ります。教員も同様にGoogleアカウントを持っているため、オンライン上での生徒とのやり取りが活発に行われます。また、授業ごとにクラウド上の教室(Google クラウドルーム)が存在します。ここでは授業ごとの課題の配布や、お知らせを確認することができます。

■実践例1

作成した文章の添削

授業での取り組みや、行事活動で作成した文章をグループメンバーや教員とシェアすることが可能であり、リアルタイムでの同時作業が可能です。また、教員からのフィードバックもピンポイントで指摘可能なため、生徒の理解を促進し、効率よく次の学びへと繋がっていきます。



■実践例2

ICTを活用した課外活動

日本での相対的貧困について問題意識をもった生徒たちは、HPを作成して食事に困っている人たちに食べ物を届ける活動を行いました。オンライン上で缶詰の寄付を求め、開橋祭では多くの方から寄贈していただくことができました。



■実践例3

ICTを活用した学びの探究(技術)

材料と加工の分野における木工製品の製作では、SketchUp(3次元モデリング・ソフトウェア)を用いた作図を行い、ものづくりへの学習意欲や理解度を深めていきます。また、図面全体が可視化されているため、教員からのアドバイスや、生徒同士の意見交換がより建設的なものとなります。



使える英語教育

開智日本橋学園での英語教育は、「使う」ことを念頭に置いてカリキュラムや環境を整えています。実用に耐える英語を学ぶ機会を学習者に提供し、英語をコミュニケーションツールとして活用していく探究的な学びを実践しています。



英語で学ぶ

開智日本橋学園では「英語を学ぶ」だけでなく「英語で学ぶ」ことを重視します。英語の授業では様々な日常や学びの場で「使う」ことを想定してReading(読む), Listening(聞く), Speaking(話す), Writing(書く)の4スキルを磨いていきます。他の科目で「英語で学ぶ」ことを経験するために英語以外の一部の科目も英語を指導言語として実施していきます。探究発表を英語で実施する機会もあり、学習の様々な場面において英語で学びます。学校生活の中でも部活や委員会の顧問、担任や副担任の先生がネイティブの先生であることもあり、コミュニケーションを英語で行う必要性が校内に溢れています。こうした「英語で学ぶ」環境を整えるため、本校では多くの英語のネイティブスピーカーが在籍しています。さらに、海外留学等の経験から英語が堪能なバイリンガル教員を加えると教員全体の30%を占め、普段から英語でコミュニケーションする文化が学校全体に根付いています。机上の学習から生まれる英語の学力向上だけでなく、日頃から英語を用いた言語活動を自然に行える環境も整えていることが本校の強みです。こうして身に付けた「本質的な英語力」と「英語を使う」積極性は生徒が国際的な舞台上で活躍するための武器になると共に、大学受験やTOEFL等の英語テストで成果をあげるための重要な礎になると考えています。

英語で実践する授業

	LC	GLC	DLC
英語	中1~	中1~	中1~
美術	中3	中1~	中1△~
技術	中3	中1~	中1△~
社会	—	中1~	中3~
HR/道徳	—	中1~	中1△~

※ DLCでは1学年時に徐々に英語を使用していきます。



私は技術(デザイン)の授業を英語で行なっています。GLCの生徒は1日目から円滑なコミュニケーションを取りますが、DLCとLCの生徒は私の説明を理解するのに最初は苦労します。しかし、学びは楽しいと思える空間を作り、生徒が英語の細かい間違いを恐れて発言しないことよりも間違ってもいいから英語で意見・質問してみる姿勢が大切と理解すると、若い生徒たちは驚くほど早く慣れるものです。その上で、ゆっくり説明したり一部日本語も交えて生徒の理解の足場を作ると、生徒は他の授業と変わらず普段通りに授業に取り組むようになっていきます。また、私は図書館司書も担当しています。英語担当の先生方と連携して英語多読プログラムを実施し、生徒たちが「英語で読む」楽しさを実感できるような環境を整えています。多くの生徒たちが洋書のブックカートを囲み、争って洋書を借りていく姿を見ると嬉しくなります。(技術科・司書 ウルフ・ジェイソン)

学ぶ楽しさを実感する

(Facilitators)

We strive to be educators that inspire students to take ownership in their own learning. As facilitators, we provide learning opportunities for students to learn the key concepts and knowledge, and develop the skills that they need to become life long learners. We engage, lead, coach, and encourage students in our classrooms.

探究型の学びで確かな「学力」を定着させます

授業概要

開智日本橋学園では各教科で探究型の学びを実践しています。生徒が授業で自ら考え、ディスカッションし、「なぜ」を追求しながら様々な問題を解決していきます。探究型の学びを通して、思考力、創造力、コミュニケーション力を培います。これらの学びを実践するにあたって知識を確かなものとするのが不可欠です。そして、学びのプロセスを振り返ることにより知識やスキルを定着させていきます。



国語 違いに目を向け、作品を味わう

小さい頃から馴染みのある『かくや姫』と、学校で習う『竹取物語』。タイトルや言葉遣いが違うのはすぐにわかりますが、違いは本当にそれだけでしょうか。中学1年生の授業では、1000年以上前に作られて、多くの人々に読み継がれてきた『竹取物語』の原文と、そこから派生した絵本や映画などのメディアの分析をしました。分析はストーリーだけではなく、表現や語りの違いなど様々な角度から行います。単なる相違点の列挙に終始せず、その背景にある文化や作者・読者にまで目を向け、多角的な視点を養います。



国語科 赤羽 香純

数学 数学はいつも隣にいる

視力を測るランドルト環の大きさと視力の関係は？スマホの契約者数はどうなっていく？今年のオリンピックの優勝者のタイムはどうなる？これらは、今までに中学1年生で取り組んだ課題の一例です。

数学は積み重ねた基礎力を応用することで、身近な疑問を解消する力になってくれるものです。問題を解けるようになり、それを応用して様々な問題を探究し解決する。そして自分の考えたことを伝えて、より考えを深める学びをしています。



数学科 川瀬 瑛樹

理科 視点を学び、視野を広げる

4年生の生物では、「心臓の左右の心室の壁の様子はどのように異なるのか」という疑問を探究しました。一人1つの食用の鶏ハツを解剖しました。探究型の学びの醍醐味は、実験前に自分なりの仮説を立て、その仮説を検証する方法を考えることです。生徒たちは、教科書で学んだ知識を思い出し、どの方向に切れば左右の壁の厚みを効果的に比べられるのかをよく考えてから実験に臨みました。結果の信頼性を高めるために、数か所の壁の厚みを定規で測って平均とばらつきを求める、という工夫をした生徒もいました。



理科 多羅尾 沙織

社会 学び、調べ、考え…世界とつながる

中学1年生の地理では、時事的な問題を多く取り入れ授業を行いました。「何故、アメリカとイランの関係は、良くないの?」「香港では何が起きているの?」問いに対してグループで協力して調べ、考え、発表を繰り返すことで、生徒たちは、地理と歴史の密接な関係や、日本と世界各地がつながる高校レベルの内容にたどりつきます。社会科が単なる「暗記」ではなく、生徒が自ら更なる「問い」を作り上げていく場にするよう心がけています。



社会科 石戸 達則

哲学対話 「人はなぜ生きるの?」「子どもと大人の境目は?」

素朴で身近だけど、すぐには答えが見つからない哲学的な問いを巡って、みんなでゆっくり・じっくり語り合い、思考を深めていきます。このように思考と対話の体験を繰り返すことで、自分とは異なる他者の意見をしっかり聞いて受け止める態度を養い、一人一人が自らの意志で物事を粘り強く考え抜く姿勢を育成します。このような「まっとうな思考力」を身につけることは、生徒が主体的に学校を運営し、探究型の学びに自発的に取り組んでいく上での「基礎体力」の役割を果たしています。



「未知」を探る

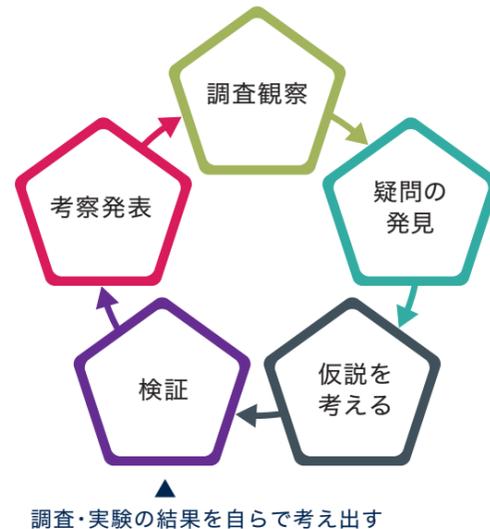
(Field Work / Project)

Self-guided independent learning is a critical part of Kaichi Nihonbashi Gakuen's education model. Fieldwork and inquiry-based projects provide a unique opportunity for students to integrate classroom instruction with real world application.

生徒一人一人が自らテーマを決め、新しいものの見方を発見していきます

「探究テーマ」とは何か

本校では、探究テーマ活動を教科学習と並ぶ教育の柱と位置づけています。身近な事柄に対する素朴な疑問から出発し、その疑問の答えを、まずは自分なりに考えて仮説を立て、実際にどのようなになっているのかを実験や観察などの方法で検証していきます。こうした一連の流れを繰り返すことによって、思考力及び課題解決能力を育成します。ここでは、正しい「解答」や「結論」を出すことよりも、どのように考え、調査、実験、検証したかの方法や過程を大切にしています。徹底的に考え抜くところが、その後の教科学習や大学進学後の学びに繋がっていきます。本校では毎年、この探究テーマ活動に取り組んでいきます。



探究テーマ例① 西洋のドラゴンと中国の龍の在り方は、それぞれの国の文化や宗教観をどの程度反映しているのか(1年生)

全く違う地域で、古くから人々の間に根付いているドラゴン(=龍)の存在を不思議に思い、このテーマに決めました。中国の竜は社会制度に根強く入り込み19世紀以前の政治に関与していたのではないかと、一方で西洋のドラゴンは敵として正義を強調するために利用されたのではないかと考えました。ドラゴンと龍それぞれについて調査したあとに比較、考察し仮説を検証しました。その結果、それぞれの国での政治や思想、文化や宗教観が反映されているものだと分かりました。

探究テーマ例② 五重塔の耐震性と心柱が宙に浮いていることにつながり(5年生)

私は、五重塔の耐震性について調べました。理由は、五重塔には耐震性があり、その構造がスカイツリー建設にも応用されていることに興味を持ったからです。私は、地震の揺れと建物の揺れが一致しないことによるものだと考察しました。心柱が吊り下げられている状態が、なぜ塔の耐震性につながっているのか、実際にモデルを使い柱が埋まっている状態と浮いている状態を、それぞれを比較実験した結果、後者のほうが長い時間地震に耐えました。地震の揺れが左から右に振れたとき、心柱は相輪の重さにより、地震の揺れについていけず、結果的に上記のようなことが起きる、ということです。



探究テーマ活動では、日々の学校生活の中で、自分が本当に興味のあることは何なのかを熟考し、やりがいを感じられる適切な広さ、深さの疑問を作ることが重要です。各教科で学んだ知識やスキルを大いに活用することで、探究がより深くなり、始める前には予想もしなかった発見があったり、自分の視野が広がったりします。この経験は、大人になって困難な課題に直面した時にも、それを乗り越えるための大きな力になってくれます。

(探究推進部長・理科 渡辺 真伍)

フィールドワーク

実社会とつながる学びとして、自分たちが培ってきた知識・スキルをツールとして用いて、様々な場所で学びを深めていきます。この活動では探究活動はもちろんのこと、実行委員の生徒が中心となり、当日の活動や全体のスケジュールを組んでいきます。

1年生

磯のFW

本やインターネットから学ぶ知識ではなく、自然そのものから疑問を持って学ぶ体験をします。これが探究学習のスタートとなります。まず磯に出て、多くの生き物を観察し、疑問の発見、仮説の設定を行い、調べ方を考えて観察・実験・考察などを行います。新たな発見や、驚きをまとめていき、その結果を全員にプレゼンテーションします。



2年生

森のFW

森では、森林や地形の関連性やそこに住む大小様々な生物を対象に探究します。自然科学の探究手法を活用することでより深い疑問が発見され、仮説・検証へと進むなかで次なる疑問に発展します。グループでともに考え、考察し、発表することで協働探究の面白さを体感しチームワークのスキルが育まれます。



3年生

都市型FW

1・2年生で自然を対象とする探究の手法を体得し、3年生では国内で人文・社会科学的分野に対して、フィールドワークの手法をグループ活動で学びます。考えの異なる班員が話し合うことで、一つのテーマから様々な仮説が出てきます。最初に設定した探究テーマが上手くいかずに繰り返すことで、試行錯誤を繰り返して、このプロセスを通じて一人ひとりの知的好奇心を磨き、自ら学ぶ力を育てます。



4年生

首都圏FW

一人ひとりが自分のパーソナルプロジェクト(P15参照)のテーマに基づいて訪問先を考え、アポイントメントを取り、個人単位でフィールドワークを行います。これまでのフィールドワークで培ったスキルを存分に発揮し、様々な手法を用いて探究活動を行います。自由度が高い活動である反面、より高度な探究活動が求められます。



5年生

イギリスFW

開智日本橋学園での探究フィールドワークの集大成として、イギリスのケンブリッジ大学に宿泊し、4年生時までに積み上げてきた探究テーマを、英語で現地の大学生に向けてプレゼンテーションし、ディスカッションに繋がります。ここまで培ってきた想像力と発信力を最大限に駆使しながら、異文化の人々とコミュニケーションを図るという体験は、大学生との心温まる触れ合いとともに、深い感動と自信となって一人ひとりの中に生き続けます。



都市型FW実行委員長



本校の特徴である「探究」は修学旅行でも養われます。特に中学生生活の集大成となる3年生の都市型FWでは、準備段階から生徒自らアポを取り、活動計画を立てます。現地でも生徒だけの班活動を行います。準備の中心となる実行委員会では、宿泊するホテルから始まり、様々な計画を生徒主体で決めました。私は実行委員長として、現地でのトラブルなど予期せぬ事態に対応することで貴重な経験を積むことができました。

自ら「何をしたいか・すべきか」を考える

(Personal Project/Service and Action)

Student driven projects encourage them to take ownership in all aspects of their learning.

様々なプロジェクトを通じて自ら計画して実行するスキルを磨きます

パーソナルプロジェクト(PP)

この活動は、MYPでの探究的な学びの集大成として行います。生徒は自らの興味・関心に沿ってテーマを決め、約1年をかけて探究活動を実践していきます。アドバイザーを務める教員は生徒の視野を広げられるように後押しします。PPは生徒にとってMYPの学びで身に付けた知識やスキルを総動員して創造的な作品や学習成果を生み出す絶好の機会です。



生徒はMYPのカリキュラムで習得したすべての知識とスキルを利用してプロジェクトを完成させるだけでなく、その探究プロセスもレポートで詳細に説明します。このプロジェクトは学術研究論文でなくてもよく、例えば絵画等、自分自身の興味関心に沿った作品を探究し制作するというものでも構いません。探究の過程で自らのスキルの上達度合いやこれまでの学習の成果について熟考し活用することが求められます。このプロジェクトに取り組む際の目標は、生徒自身が自律的な学習者になってきたことを実感できるようにすることです。生徒が自分自身の興味関心に沿って純粋に楽しみながら取り組むことを願っています。

(パーソナルプロジェクトコーディネーター・英語科 グレイス・ビルグリム)

サービス アンド アクション(S&A)

本校では授業外で生徒が行う創作・スポーツ・社会貢献活動などが、生徒の深い学びや成長に繋がるように支援を行っています。それがS&Aです。生徒は今まで授業等で学んだ知識やスキルを身の回りの実生活で活かして活動し、教科を学習する意義を認識することができる機会となります。



S&Aは活動の流れの中でねらいを立て、活動記録をとり、それらについて振り返る過程を重視しています。これらの活動を通して、生徒には自分の特性についてより深く理解し、ATLスキルを伸ばして欲しいと思います。また、多くの教員や地域・外部機関の方々と接することで、生徒が新たな視点を得て、自分の興味・関心から主体的に行動する楽しさを実感することを期待しています。社会のニーズや問題について取り組む "Actors in the real world" になってもらいたいと考えています。

(S & Aコーディネーター・数学科 竹中 透)

PPの例① 不思議の国のアリスの世界をかぎ針編みを使って表現する

このプロジェクトの目標は、「不思議の国のアリス」の世界をかぎ針編みを使って表現することでした。ストーリー中に出てくるような建物や風景、場所などを書籍や映画などを参考にし、自分のイメージを膨らませて作品を作りました。私がこのテーマにした理由は、自分の趣味である、かぎ針編みをプロジェクトで扱ってみたかったことに加え、「不思議の国のアリス」の世界観を自らの手で再現してみたかったからです。MYPでの学びの集大成ということで達成感もあり、総合的に楽しい活動となりました。



PPの例② 過去の自分と他のLGBTの学生のためにwebサイトを製作し、学生を助ける

このプロジェクトは、LGBTQの学生が抱える苦しみや孤独という感情を緩和することを目指しました。そのためにLGBTの学生をターゲットにしたvivid clubというウェブサイトを作成しました。私自身が過去に過ちを犯してしまい、理不尽で理解できないような状況に陥ってしまう経験がありました。そこで、私と同じ境遇の他の学生を助けるため、この活動に取り組みました。この活動を通して、計画から考察まで行い100人以上のメダリストや身近な先生などにコンタクトを取り、元気づけるメッセージも頂きました。



パーソナルプロジェクトでは何に興味を持っていて、どのように展開できるのか、自分を見つめ直すいい機会でした。約一年という企画なので自分のペースでやりきる自己管理スキルが向上しました。途中私は計画通りに行かなかったのですが、逆になげうまくできなかったのかを考える機会となり、結果的に成長できました。また、パーソナルプロジェクトでの失敗を活かし、より現実的なプランを立て実行することができるようになりました。

(4年生)



SAの例① 手話について学び、冊子を作成する

介護施設を手伝った際に、聴力の弱いご老人と施設の方が手話でコミュニケーションを取るのを見て、手話に関心を抱くようになりました。手話ができるようになり聴力の弱い方の価値観などを感じるようになるというねらいを元に、動画を見るなどして手話の学習を開始。最終的にはグループで、手話で会話するカフェに行き、学んだことを実践しました。これらの経験を元にした冊子を作成しましたが、今後はもっと手話のよさを広めるために、よりインパクトのある方法を考えて実施したいと考えています。



SAの例② 使い捨てカイロを集め、水の再利用の実験を行う

関西FWやNGO団体の講習でSDGsの概念に触れ、水質汚染に関する探究発表を行いました。その探究発表のリサーチの中で使い捨てカイロを集めて、水の浄化を行う団体を知り、自分も同じような活動を行おうと考えました。自分の実験や学んだことを周りに知ってもらい、世界の水質汚染について考えてもらうことを目標に、ポスターの作成を行いました。今後はDPに進学し、この水の循環に関して学び、グローバルな課題の解決に繋がりたいと考えています。



S&Aは、生徒が経験を通じて成長する活動です。一番印象に残ったS&Aは本のブログを運営することで、目標は3か月間毎週投稿することでした。読書の楽しさを伝えると嬉しくて、他の人にもっと読書してもらいたいと思っていました。ウェブサイトを作成して定期的に投稿することで、デザインとICTのスキル、および自己管理スキルを向上させました。S&Aとは、なじみのない経験に挑戦することで、情熱を広げ、新しいスキルを学ぶことです。

(2年生)



生徒が 自らの手で創りあげる行事

(School events)

Independence and self reliance are foundations of our student body and for this reason, students are encouraged to proactively step forward as leaders and mentors.

実行委員会が中心となり、企画立案から準備、実行まで主体性を存分に発揮 します

主体性を育む学校行事

開智日本橋学園で行われる行事では実行委員会が主役となります。実行委員の生徒は、企画、準備、運営し、行事を自分たちの手で創っていきます。教員のサポートは必要最小限に抑え、真の主体性を育みます。行事の後には必ず振り返りを実施し、次の行動に繋げていくために失敗や成功から学んでいきます。

開橋祭

開橋祭実行委員会が中心となり、規約やテーマ設定をはじめ、企画から調整、当日の運営まですべて生徒が行います。各団体の企画に加え、学年ごとの探究発表は、日ごろの成果を多くの方に見ていただく貴重な場だと考えています。在校生・来校者すべてが楽しめる開橋祭を目指して、全員が取り組みます。

学年ごとの企画

1年生 探究発表

2年生 合唱フェスティバル

3年生 クラス企画

4年生 クラス演劇

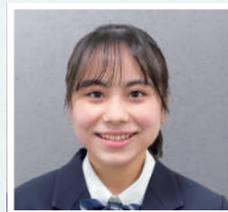
5年生 クラス企画

※その他、部活や有志団体の展示やパフォーマンスも行われています。



5年 | 開橋祭実行委員長

開橋実行委員は半年以上も前から会議を重ね、準備を進めていきます。教室の割り当てから、教室の装飾に関する規約などの実務的な作業も実行委員の役目です。この行事は在校生だけでなく、多くの保護者や受験生も参加されます。前年の反省点を踏まえて、誰もが満足して楽しめる文化祭を目指して取り組みます。校内全体で主体性が発揮されるそんな学校行事です。



体育祭

開智日本橋学園では、前年度の反省などを踏まえ、新たに組織された体育祭実行委員会が、体育祭の全体を一から考案していきます。種目や、色分け、応援、招集なども生徒がすべて取り決めていきます。5年生から1年生までが全員参加し、それぞれの持つ力を存分に発揮しながら一つの学校行事を作り上げていきます。生徒が自ら作り上げる体育での達成感は、他では得られない格別なものになります。



5年 | 体育祭実行委員長

私たち体育祭実行委員会は "開智日本橋学園らしい体育祭" を作るために、種目決めなどの細かいところから、計画を練っていきます。本校らしい生徒と教員が楽しめる体育祭を創造していく過程で、学校単位で人を動かす大変さ、そして行事を1から作る大変さを身に染みて実感し、更に思考力、想像力、計画力等を成長させることができました。



芸術発表会～The Sound of Music～(3年生)

学年全員で1つのミュージカルに挑戦します。創造性・リーダーシップ・コミュニケーション力・主体性など、本校が生徒たちに求めるもの全てが必要とされる行事です。美術と音楽の授業で準備するなかで、芸術に関する教養を総合的に学んでいきます。



4年 | 芸術発表会実行委員長

サウンド・オブ・ミュージックは第3学年の終わりに学年全体で取り組むミュージカルです。クラスごとにシーンと役者を決めて上演します。私は合唱祭の実行委員長の経験もあったため、その時の反省などを踏まえスムーズに劇の準備を進められたと思っています。しかし、リハーサルの準備で朝早くに登校するなど大変なこともありましたが、全てが終わったあとの達成感と感動によって涙が止まりませんでした。あの時の気持ちは忘れることができません。学年全員をまとめる事の大変さ、多くの先生方と交渉することでコミュニケーションスキルが得られたと思います。



好きなことに夢中になる

(Club activities)

The skills students acquire in the classroom are regularly applied in other areas of school life.
Club activities are one place where students can turn passion into action.

学問と部活動を両立し、仲間と切磋琢磨しながら自発性を育てます

部活動について

開智日本橋学園の部活動は、生徒が中心となり活動を行っています。活動日や、活動場所、更には活動内容なども生徒が考案し、自ら組織を運営していくことで日常的に主体的な活動を行っています。勉強のみならず、充実した学校生活を過ごすために先輩、後輩に関係なく一体となって挑戦していきます。

バスケット部

生徒の声



バスケットボール部は週4日で活動しています。経験者は今までの知識や技術を活かして教え合い、初心者には先輩や経験者の技を日々学び、練習し成長しています。チームスポーツなので、仲間とコミュニケーションをとることも大切にしています。本音で話し合うからこそ、時には意見のぶつかり合いもありますが、チームとして成長するために切磋琢磨しながら活動しています。本校のバスケットボール部は楽しく奥が深い部活です。



バドミントン部

生徒の声



バドミントン部では、多くの部員が未経験者ですが、それぞれの目標に向かって一生懸命努力しています。練習は集中し、休憩中は学年関係なく仲良く話すなど、メリハリをつけて活動しています。部活を通して、他学年との交流も増え楽しい学校生活を送っています。目標達成のために努力することの大切さを実感することができます。



バトン部

生徒の声



バトン部はバトントワリングやポンポンをチームで演技する部活です。年に数回、大会に出場し、開橋祭や体育祭などの学校行事でも演技を披露しています。この部活で学べることは自らの意思で動くことです。限られた練習時間で、精一杯の練習するためには、一人一人の行動が重要になります。部員は常に指示されなくても動けるように日頃から心がけています。



演劇部

生徒の声



演劇部には学年もタイプも様々な生徒が所属していて、いつも賑やかな楽しい部活です。発声など初歩的な練習は勿論、立ち位置やアドリブ等、幅広い練習を日々行っています。裏方志望で入部した生徒が今では役者として舞台上立つなど、緊張に弱かった生徒が自らアドリブを入れて演劇を楽しんでいる様子を見ると、演技力が成長するだけでなく、新しい自分と出逢える部活なのだと感じます。



吹奏楽部

生徒の声



吹奏楽部には大会や演奏会など、年間を通して様々な演奏機会があるので、私達は普段そのための練習に励んでいます。また、新入生歓迎会やクリスマス会などもあるので、先輩後輩関係なく皆が仲良くなれます。吹奏楽部の活動の中で特に私の成長のきっかけとなったのは、大会運営の手伝いと講習会への参加です。これらを積極的に行う私達には外部の方々とのコミュニケーションをとれる機会が多々あり、それが魅力でもあります。



サイエンス部

生徒の声



サイエンス部は週2日、科学という観点で、探究、実験、解剖、プログラミング等、部員が挑戦したいことを積極的に行っています。主体的な活動が求められるこの学校で、学年関係なく和気藹々と挑戦を行っています。理科実験室も2教室あり、実験器具等も充実していますので、活動のバリエーションが豊富です。



その他 部活 / 同好会一覧

運動部		文化部		同好会	
バレーボール	剣道	調理	美術	映画	歴史研究
軟式野球	ダンス	茶道	イラストレーション・文芸	パソコン	合唱
陸上	水泳	華道	軽音	ディベート	折り紙
サッカー	フットサル	書道	CG・写真	数学	鉄道研究
卓球	テニス	箏			フランス語
					クイズ研究

学校を創る／ 自分を発見する

(Collaboration)

We will take on challenges that contribute to the well being of society and make every collaborative effort to achieve the goal.

自分のためだけでなく、社会のために役立つ思考や行動を身に付けます

委員会活動

委員会活動は、部門ごとに目標を持ち、それをどのように達成していくかを生徒が中心となり運営を行っていきます。自ら学校を創造していく重要な活動として、1年生から5年生までが主体的に取り組んでいきます。

活動例：保健委員会

【各部門に分かれて活動】

① 感染症対策 部門

- ・ 感染症対策のポスター作り

② ダイバーシティ 部門

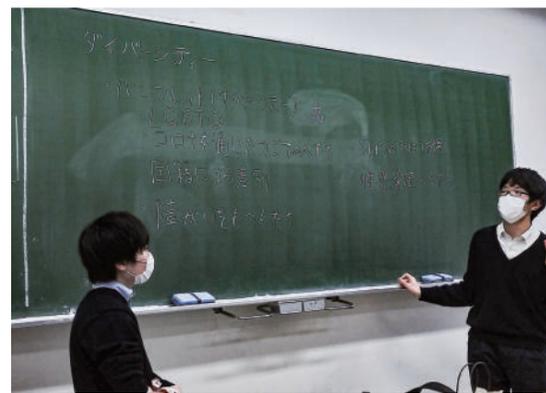
- ・ LGBTQに関する校内配布用パンフレット作成
- ・ 国籍・障がい・性感染症 等による差別について考える

③ クラフト 部門

- ・ ハンドクリーム作り
- ・ 石けん作り

④ 1年生 部門

- ・ 学校生活における3密防止のための動画作成
- ・ 保健室前に掲載する啓発系ポスター作成



保健委員会 | 委員長

保健委員会は日ごろから生徒の体調管理に務めています。感染症予防の呼びかけや、モノづくり、ダイバーシティの理解を深める活動をしています。活動の内容ごとにグループ分けをしているのが特色です。感染症対策では、手洗いうがいを呼びかけるポスターを校内に掲示することを計画しました。モノづくりではハンドクリーム作りしました。ダイバーシティではそれに関する映画の鑑賞やパンフレットの作製を計画しました。このように各委員会では、それぞれのミッションを達成するために様々な活動を行っています。



委員会一覧

美化委員	保健委員
風紀委員	ライブラリ
IB教育推進	体育祭実行委員
開橋祭実行委員	体育祭実行委員
開橋際実行委員	KNG ラジオ
KNG ニュース	生徒会報
季節のイベント	六送会



キャリア教育

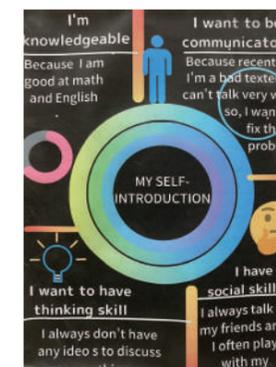
本校の進路部では「自己実現、社会貢献からの進路実現」という方針のもと、6年間をいくつかの段階にわけて進路・学習指導をしています。中学1、2年では学習習慣を身に着けることに重きを置き、中学3年では「社会を知る」をスローガンに企業訪問や探究活動を行います。高校に入り4年生では「大学を知る」ため各分野から講師をお招きして進路講演会を行うなど文理分けの礎を作っていきます。5年生では「学部学科を知る」というコンセプトのもと、学校内外の活動を通して志望校、志望学部を決定していきます。本校ではこのように自分の将来像から逆算するというマクロの視点と今現在の興味関心からアプローチするミクロの視点から進路決定をしまります。

各学年の重点目標

ステージ	学年	進路
第1ステージ	1年	自分を知り、社会を知る。
	2年	自分と社会の関りを知る。 自分を知り、社会を知り、職を知る。 社会と職の関りを知る。
第2ステージ	3年	自分と社会、社会と職、自分と職の関りを知る。 自らの進路を意識し「始め」る。
	4年	文理選択の決定。大学で学ぶことの意義を知る。「何を学びたいか、何になりたいか」を念頭に。
第3ステージ	5年	志望大学、志望学部の決定。「何を学びたいか、何になりたいか」「何で貢献できるか」を念頭に。
	6年	自己実現、社会貢献からの進路大成のための適切なストラテジーの提案とその運用。

1,2年:IBの学習者像を活用しての「自分とは何者か?」の探究

ホームルーム活動等の中で、IBの10の学習者像を活用しながら自分の性格や得意なことを言語化していきます。自分が考えている「自分像」と周囲から見える「自分像」は異なることもあり、クラスメートや先生とのディスカッションを通じて自分を発見していきます。



3,4年:「留学フェロシップ×開智日本橋学園」ワークショップ

海外大学に進学した大学生を招き、講演会では彼ら彼女らがどのように「主体的」に進路を決めていったのかを聞きます。そして、小グループのワークショップでは先輩方の大学生活や大学での授業内容についてざっばらんに質問していきます。海外大学を視野に入れている生徒はもちろんのこと、国内大学を目指す生徒にとっても主体的に進路選択することの大切さを感じられる、本校ならではのキャリア教育です。



国際バカロレア・ディプロマを 修得する

(IB Diploma Course)

International Baccalaureate Diploma opens the door for university level, advanced academic studies

生徒主体・探究学習の集大成を世界基準で達成する

DP (ディプロマ・プログラム) クラス



MYPを終了したのち、高校2年生から2年間のDP (Diploma Programme) のクラスに進級することができます。DPクラスは1~4年次のMYPプログラムで育んだ「生徒主体」「探究」の学びを高度に発展させるIB教育の集大成と位置付けています。DPのカリキュラムは学術的にも大学教養課程レベルの高度な内容で、世界統一基準の最終試験で求められる学力は相当高いものです。本校では生徒が高度なDP学習にスムーズに適応できるよう、MYP~DPに繋がる6年一貫のカリキュラムを構築しています。DPカリキュラムでIBが求める知識、思考力、発信力、英語力等の基礎学力をMYPでじっくり身に付けるとともに、DPに繋がる学習内容をMYPにおいても先取りして取り上げていきます。国際バカロレアのディプロマ修了生は、日本を含む世界各国の大学等で活躍しており、高い評価を受けています。本校のIBディプロマ修了生はIBディプロマと一条校としての高校卒業資格の両方を取得することになります。



(教頭・DPコーディネーター・
社会科 アンドレアノ・ジョナサン)

DPカリキュラムと学習内容

コア科目

知の理論：Theory of Knowledge (TOK)

- 高度な批判的思考スキルを習得する
- 自分の学び方の特徴を理解する
- 様々な学術領域の特徴を理解して将来の学びに繋げる

課題論文：Extended Essay (EE)

- 4,000 words/8,000字以内の学術論文を完成させる
- 担当教員の助言のもと主体的に取り組む探究学習の集大成

Creativity, Action, & Service (CAS)

- 創造性(芸術・探究)、活動(身体的活動)、奉仕(ボランティア)を実践する
- DPで得た知識・スキルを活用して活動の幅を広げ、社会貢献する

DPカリキュラムの特徴は、MYPまでの基礎学力を生かしながら大学教養課程レベルの高度な学習を行うこと、コア科目を通して各科目に繋がる学際的な学びを追求すること、日英両言語で学術的な学びや活動を行うことです。授業では6グループの科目を受講するほか、TOK (知の理論) で深い思考力を身に付け、CAS (創造性・活動・奉仕) で体系化された課外活動を学校の枠を超えて実践します。さらに探究学習の集大成としてEE (課題論文) に取り組みます。DP科目を担当する教員はIBの公式ワークショップを修了し、国内外のIB教員と連携しながら授業運営を行います。

また、本校ではMYPまでに育んできた英語「で」学ぶ能力を活かせるようにGroup2：英語Bに加え、Group3 (社会系科目)：地理・ビジネス、それにGroup6：美術も英語で履修できるようにしています。英語を指導言語とする科目は英語ネイティブ教員もしくはバイリンガル教員が担当します。Group3 (社会系科目) の1科目を英語で履修し所定の成績を修めることでバイリンガルIBディプロマの修得も可能です。日本の一条校としての強みもDPカリキュラムに生かしています。日本の中高教育の理数系教科レベルは世界的に見ても高いと言われており、その強みを生かすためにも国語系科目とともに理数系科目は日本語で開講しています。

開講予定科目

Group 1 (言語と文学): 日本語 A: 言語と文学 (HL/SL)

Group 2 (言語習得): 英語 B (HL/SL) *

Group 3 (個人と社会): 地理 (HL/SL) *, ビジネス (SL) *

Group 4 (理科): 化学 (HL)、生物 (HL/SL)、物理 (HL)

Group 5 (数学): 数学 (HL/SL)

Group 6 (芸術): アート (SL) *

*6科目のうち、3科目を上級レベル、3科目を標準レベルで履修する

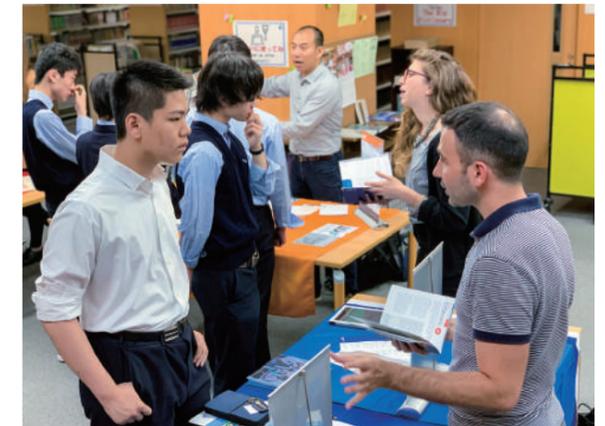
*の科目は指導言語を英語にて実施予定だが、今後 Group3の一部を日本語で実施検討

*原則各 Group から1科目履修するが、Group 6に替えて Group3,4からもう1科目選択可能

DP生に対する進路指導

世界各国でのDP修了生に対する評価は高く、生徒はバカロレア生としての強みをアピールしながら日本・海外への大学進学を目指していくことになります。海外の大学ではDPの成績を重視して入学資格を与えることも多く、DP科目の成績次第で大学入学後の単位も認める場合もあります。日本の大学においてもDPの成果を評価する入試形態を採用する大学も増えてきました (63大学：文部科学省IB教育推進コンソーシアム事務局調べ)。

本校ではDPクラス生の進路選択をサポートするためにDP修了生や海外大学生を招いたセミナーやワークショップを開催するなど、日本や海外大学のアドミッションオフィサーを講師にした説明会を開催しています。また、海外大学出身のネイティブ・バイリンガル教員も多い強みを生かし、SATやTOEFL講座を開講し、出願エッセイの書き方講座を行う等、きめ細かい進路カウンセリングを行っています。



DP修了生の声

■ DPクラスに進級した理由は？

内山さん: 私がDPに進級した理由は、イギリスの大学に進学したい気持ちが強かったことと、中学の頃からMYPで学んでいたというもあり、やってみようかなと思いました。DPコースに入ってから自分が一生を通して楽しんでいる仕事をしたと考え始め、その結果行きたい大学も明確になり、そこに行くための最善策がDPだったと今では感じています。
小松君: シンプルにIB (MYP, DP含め) の学び方が自分にとって、しっくりきているからやっています。自分は自分から課題意識を持って物事を学んでいくのが好きなので、探究する自由度の高いIBの学びが向いていました。

イブではありませんでした。しかし、MYPでもDPの授業でも自分の意見を共有する機会が多く、IBのカリキュラムで学んでいくうちに周りに自分の意見をもっと多くの人に聞いて欲しいと思うようになりました。今は年齢や国籍問わず、誰とでも話してみたいと思えるようになりました。

小松君: 僕は、客観的に自分を見られるようになった気がします。特に知の理論などのコア科目、好きだった言語と文学の授業で物事を深く批判的に思考することが多く、自分自身のことも多面的に考えるようになりました。CASというコア科目では授業外で行う活動の計画を立て、自己管理スキルや社会性スキル等を意識するようになりました。体育祭などの学校行事、学校外で行った音楽イベント企画での外部の人との協働作業を通じて、自分でコントロールできることとそうでないことも理解できるようになりました。

■ DPの学びで役に立ったことは？

内山さん: 外向的になったことだと思います。私は元々人前で自分の意見をどんどん言うタイプ



■ DPの学びが今後の人生でどのように生きていくか？

小松君: 言語の授業やコア科目などを通して、何かに対して深く理解する、或いはしようとするための姿勢を学べました。今までの担任や教科の先生たちも僕のことを理解しようとするという態度をすごく示してくれたから、



そういうところにインスパイアを受けたというのがあります。この「何かを理解しようとする姿勢」は今後の学びの場面においても、普通の生活においても、人間的に成長するために非常に大切なものだと思います。

内山さん: すべての面において役に立つと思います。IBを通して物事の良い面も悪い面も含め、たくさんのことを学ぶことができました。そしてそれが自分の自信にも繋がりました。IBは自分が得意な分野だけでなく、苦手な部分も含めて、逃げることなく総括的に取り組むことができるプログラムだと思っています。自分と向き合う時間の大切さ、計画を立てることの大切さ、人との関わり方など社会で生きる上で根本的に必要な概念・スキルを学びました。この先、大学に進んで論文を執筆したり、社会人として多くの人とコネクションを作る時などに生きてくると思います。

※対談記事全文は学校HP上に掲載しています

進路指導と大学合格実績

(The culmination of learning)

Students put all of their learning into context during the last two years at KNG, preparing for further learning at higher educational institutions.

主体的に学ぶ姿勢を貫き、自ら希望する進路を実現します

コース選択

本校では、4年次までに高校課程までの学習範囲の大半を修了し、5年次には、私立系、国立文系、国立理系、医学系、DPコース、6年次には志望校を意識して難関国立コース、難関私立コースなど各々の進路実現に適したコースに分かれて学習を行います。同じ目的を持った生徒と切磋琢磨しながら進路実現へと繋げていきます。

放課後特別講座

5年生の秋からは放課後に特別講座を実施します。志望校合格を確実なものにするため、自ら必要な講座を選び、徹底した受験準備を進めていきます。開智学園での伝統的な受験勉強体制を本校でも引継ぎ、全力で進路実現へ挑戦します。

特別講座実施例

	月		火	水	木	金	土
	A 週	B 週					
難関理系	—		東大国語	東大物理	理系数学 X	東大科学	東大英語
難関文系	東大地理	東大日本史	—	文系数学 X	東大現代文	東大古典	東大英語
理系	早慶英語		東大レベル理系古典	東大レベル英語	東大レベル理系数学	理系物理 理系生物	理系数学
文系	早慶英語		国立英語	古典	現代文	文系記述数学	日本史
			GMARCH 英語				世界史
			標準英語				
小論文	医系小論文		—	—	—	推薦小論文	—

独習合宿

6年生は本格的な受験に向けた意識づくりを行います。皆が一つの会場内で自分の持ち込み学習を行います。これを本校では「独習」と呼んでいます。自分自身で何を学習すべきかを考える姿勢作りを行い、これからの1年間をスタートしていきます。



本校の進路部では「自己実現、社会貢献からの進路大成」という方針のもと、生徒ひとりひとりが自分の将来像から逆算するというマクロの視点と今現在の興味関心からアプローチするミクロの視点から進路決定をできる手助けをしております。そして、そこには「戦略的思考」という概念が常に横たわっています。色々な情報を精査し、今の自分にできる最善の策を考え、その中で発生するであろう新たに問題も予想した上で実行する。このような思考を日常の教科学習はもちろん、FWを中心とする探究活動、更には自身の進路設計にまで適応させることが本校ならではの醍醐味でもあります。また、これらの姿勢は5年生から開始される放課後特別講座をはじめとする大学受験指導にも生かされています。例えば、数学においてはただ問題演習するのではなく、生徒発信の解答を用いて良い点改善点を討論し、自分たちの力で完成させる。時間内により良い答案を作るために取捨選択する部分を戦略的に判断するといった部分です。ある意味では本校で学んできたこと全てが受験対策の場面で体現させることができる、といっても過言ではありません。

(進路指導部長 池田陽一)

開智日本橋学園高等学校 2023年度主要大学入試実績 【3期生 140名】

国公立大学・大学校	23名	医学部医学科	3名
京都大学	1	帝京大学	1
千葉大学	2	埼玉医科大学	1
お茶の水女子大学	1	東京女子医科大学	1
東京外国語大学	1		
横浜市立大学	2		
東京学芸大学	2		
東京農工大学	1		
防衛大学校	2		
防衛医科大学校	1		
海上保安大学校	1		
東京医科歯科大学	1		
東京都立大学	2		
室蘭工業大学	2		
名古屋工業大学	1		
金沢大学	1		
金沢美術工芸大学	1		
長崎県立大学	1		
		私立大学	458名
		早稲田大学	14
		慶應義塾大学	5
		上智大学	11
		東京理科大学	15
		国際基督教大学	4
		学習院大学	4
		明治大学	18
		青山学院大学	11
		立教大学	23
		中央大学	8
		法政大学	40
		立命館大学	2
		立命館アジア太平洋大学	7
		成城大学	2
		成蹊大学	10
		明治学院大学	7
		獨協大学	11
		ルーヴェン・カトリック大学[ベルギー]	4
		モナシュ大学[オーストラリア]	9
		クイーンズランド大学[オーストラリア]	5
		マンチェスター大学[イギリス]	1
		シドニー大学[オーストラリア]	2
		アムステルダム大学[オランダ]	60
		エラスムス・ロッテルダム大学[オランダ]	80
		アデレード大学[オーストラリア]	88
		ウィットマン大学[アメリカ]	1
		オハイオ・ウェスリアン大学[アメリカ]	1
		デポー大学[アメリカ]	1
		バーミングハム大学[アメリカ]	1
		ローレンス大学[アメリカ]	1
		アケイディア大学[カナダ]	1
		マウントアリソン大学[カナダ]	1
		サウサンプトン大学[イギリス]	1
		シェフィールド大学[イギリス]	1
		アムステルダム自由大学[オランダ]	1
		ティルバーグ大学[オランダ]	1
		セグド大学[ハンガリー]	1
		クイーンズランド工科大学[オーストラリア]	2
		テイラーズ大学[マレーシア]	1
		オークランド大学[ニュージーランド]	1
		台湾大学[台湾]	4
		東海大学	1
		亜細亜大学	2
		帝京大学	4
		国士舘大学	5
		龍谷大学	5
		麻布大学	1
		跡見学園女子大学	3
		桜美林大学	4
		大妻女子大学	2
		開智国際大学	16
		学習院女子大学	1
		神奈川大学	6
		神奈川工科大学	1
		神田外語大学	4
		共立女子大学	3
		京都芸術大学	2
		実践女子大学	1
		十文字学園女子大学	1
		昭和女子大学	5
		清泉女子大学	1
		聖心女子大学	1
		大正大学	3
		拓殖大学	4
		玉川大学	2
		多摩美術大学	2
		帝京科学大学	1
		帝京平成大学	11
		デジタルハリウッド大学	1
		東京経済大学	1
		東京工芸大学	2
		東京情報大学	1
		東京女子大学	2
		東京聖栄大学	1
		東京成徳大学	1
		東京家政大学	3
		二松学舎大学	1
		日本工業大学	1
		日本獣医生命科学大学	1
		日本女子大学	6
		武蔵野大学	3
		明星大学	1
		立正大学	1
		麗澤大学	2
		和光大学	2

* [] の数字は世界大学ランキング (Times Higher Education 2023)
* (参考) 東京大学は39位

生徒が語る年間行事

(Events)

To help our students develop life skills outside of the classroom, Kaichi Nihonbashi Gakuen offers a diverse array of engaging student-led activities. These activities provide students with the opportunity to express both their academic and extracurricular interests, as well as become peer leaders within the student body.

夢宣言 | 1年生代表



自分の番を待っている間はとても長いのに、自分の発表の時は一瞬のように感じられるほど緊張しました。大勢の前で夢を宣言することで、自分の決意を示すことができる貴重な機会でもあると思います。また、自分の夢は国境なき医師団に入ることですが、多くの仲間の夢を聞いていく中で、共に切磋琢磨して頑張っていこうと士気が上がる行事です。

TBC | TBC実行委員長



TBC (Team Building Camp) は1年生にとって、初めてのイベントというだけでなく、2年生にとっても、先輩になって初めてのイベントです。1・2年生混合のグループで協力して企画や探究発表に取り組む中で、関係を深めることができました。また、イベントを一から作ることの大変さ、計画通りに進めることの難しさも知りました。1年生も今度は先輩としてこの行事を運営していきます。また、次の代に受け継がれていければ良いと思います。

生徒総会 | 生徒会長



生徒総会は生徒会役員が準備し、進行していきます。1年生から6年生までの全校生徒が集まり、生徒会・委員会・部活・同好会の昨年度の決算と今年度の予算案についての承認を生徒から賛成・反対の票を集めます。ここで、賛成の意見が少ない場合には各団体への活動資金ができません。そして、2年前から始まった生徒全員所属している委員会活動について、活動の目標・内容などの紹介を各委員会の委員長にしてもらいます。学校の物事を全体で決めていく非常に重要な機会となっています。

夏期講習 | 生徒会副会長



夏休みに生徒に向けて夏期講習が行われます。夏期講習では主に数学、英語、国語の3科目に加え、スタンダード、アドバンス、ハイレベルといった3つのレベル分けがされており、自分に見合ったレベルで受講することができます。夏休み前に自分が苦手、不安だった範囲をこの夏期講習を通して、復習をすることで、円満満足で新学期を迎えることが出来ます。

1学期

4 APRIL

入学式



新入生を迎えます。新入生は一人ひとりがこれからの抱負や将来の夢を壇上で宣言する、「夢宣言」を行います。父母、教職員を前に堂々と開智日本橋学園の生徒としての一歩を踏み出します。

独習合宿(6年生)

Team Building Camp
～オリエンテーション合宿～(1&2年生)



入学式から間もなく、1年生は2年生と合宿に行きます。スケジュールの大半は先輩と共に過ごし、開智DNAを引き継いでいきます。探究発表を初めて行うのもこの機会です。

5 MAY

生徒総会



三者面談

6 JUNE

体育祭

7 JULY

夏期講習



夏休み、冬休み、春休みに、それまでの学習の復習として、平素の授業では行えない学びを集中的に行います。通常の講習と別に、オール英語の合宿、海外英語研修、英語集中講習、数学集中講習など、学力定着と知識の体系化などを徹底して行います。夏期講習限定で行われる理科実験講座があるのも開智日本橋学園ならではの。

8 AUGUST

海外短期留学



希望者を対象に海外への短期留学を行います。ホームステイをして、現地でしか学べない探究を行います。昨年度例:ロサンゼルスにて実施
現地校で14日間の英語での探究学習

首都圏フィールドワーク(4年生)

1年生から3年生までに培った探究力を基に、自分の得意な分野や好きなテーマを首都圏をフィールドにして探究します。

2学期

9 SEPTEMBER

イギリスフィールドワーク(5年生)
磯のフィールドワーク(1年生)
森のフィールドワーク(2年生)
都市型フィールドワーク(3年生)

10 OCTOBER

開橋祭
芸術鑑賞

11 NOVEMBER

三者面談

12 DECEMBER

冬期講習
大学入試共通テスト直前講習(6年生)
大学入試共通テスト直前まで、必要な全ての科目の過去問や予想問題を本番と同様に解き、得点力のアップを図ります。

3学期

1 JANUARY

国公立二次・私大直前講習(6年生)

2 FEBRUARY

探究発表会
芸術発表会～The Sound of Music～(3年)

3 MARCH

卒業生を送る会
卒業式
ヤングアメリカンズワークショップ
※2020年度参考例

海外短期留学 | 海外短期留学実行委員長(5年生)



赤い大地に青い海、大きいトラックに旨い飯…。少なくとも日本ではない土地に、2週間ホームステイするというのが、「海外短期留学」です。旅行ではなく留学なので英語能力の向上はもちろん、海外の風習や気候、人柄などの様々なことを学べました。僕の場合は昔より広い視野で物事を考えられるようになりましたが、人によって何らかの成長を確実に得られる行事です。

磯のFW | 磯のフィールドワーク実行委員長(1年生)



磯のフィールドワークは学年単位で実施する初めての探究活動で、グループ内で協力し探究を行います。磯の生物を採集して観察するところから、探究活動のフィードバックまでを三日間で完結させました。短い期間で行うので苦労もありましたが、問いの立て方や発表までの流れなど、今後の活動に繋がる基礎的な部分を学ぶことができました。

直前講習 | 6年生代表(卒業生)



大学入試共通テスト直前講習では、本番の直前まで何度も予想問題などを用いて実戦形式の演習を重ね、共通テスト本番のスコアアップを目指して日々講座を受けていました。同じ共通テストを受ける仲間と、ほぼ毎日のように切磋琢磨して勉強ができる環境は素晴らしいものでした。

ヤングアメリカンズ校内開催



約2年間の企画～交渉を経て、校内で「ヤングアメリカンズワークショップ」を開催。YA招致委員会を生徒自らが立ち上げてYA事務局と交渉を重ね、学内プレゼンテーション・保護者説明会・各クラスでの説明会などを企画し、2017年からの開催実現！

6年間過ごす環境を活かす

(School Life)

Students serve an important role in shaping the culture and environment of our school.

充実した日々を過ごすための環境を整えています

制服紹介

生徒主体の活動で生まれた女子用スラックス

SDGsの学びをきっかけに、生徒がジェンダーについて開橋祭で発表するグループを結成しました。LGBTQについての表現や取り扱いを学ぶために新聞社に取材を行うなど積極的に活動を行いました。開橋祭での発表を終え、ほかの生徒からの要望もあったことから、スラックス導入へ向けたプロジェクトへと発展していきました。起案書作成から始まり、何度も試着を行い、メーカーとすり合わせを行っていきました。こうして実現した女子用スラックスは防寒や動きやすさの面からも多くの生徒に愛されています。



充実した一日

8:10

登校/朝読書

学校には8:10までに登校します。朝のSHRが始まるまでの15分間、自分が好きな本を読み深めます。



13:20～15:10

午後の授業開始 [5限目～6限目]

土曜日の午後授業はありません。



8:25～8:35

朝のSHR

今日の予定や暦などの確認とともに、今日一日の学びを考え、主体的・意欲的に学ぶ気持ちを高めます。



15:10～15:20

SHR、清掃

今日の振り返りを行い、予定を確認する時間です。



8:40～12:30

授業開始 [1限目～4限目]

実験や観察、討論したり、考え合い、教え合う活動的な授業がいっぱいです。



15:20～

部活、補習授業、特別講座

仲間と過ごす、補習を受ける、自習室で学習する、部活をする、自分で決め活動する時間です。



12:30～13:20

昼食・昼休み

友だちとともにラウンジや教室で食事をしたり、昼休みを楽しみ過ごします。



登下校管理システム

不審者の侵入を防ぐため、最新のセキュリティシステム（オートロックシステム）を導入。安心して学校生活を送れるよう、安全対策は万全です。



施設紹介

日本橋校舎は、地上8階、地下1階と屋上を有する冷暖房完備の近代的校舎です。

教室



探究学習・IB授業を効果的に行える少人数対応の教室設計。1クラスあたり25～30名程度のクラス人数で効果的な授業を展開します。また、すべての教室に日差しが入り、明るく、清潔な教室空間です。

ライブラリ



2万冊を誇る蔵書に国内外の書物を多数配備。探究学習や論文制作に対応できる豊富な資料・図鑑も配備。また、生徒に人気の小説や学術書、情報収集の雑誌や新聞も配備。中央区図書館とも連携。

体育館



体育の授業や部活動を行う明るく、広い施設。安全に配慮した設計で体育倉庫・部室があります。冷暖房完備で、健康管理にも配慮した最新鋭の体育施設です。

ラウンジ



昼食や放課後に生徒が集えるユーティリティースペース。クラスや学年を超えた交流で、探究や議論も活発に行えます。また隣接するウッドデッキで食事をとることも可能で、神田川に臨む眺望も本校ならではの。

ウッドデッキ



進路指導室



6年生は勉学に励めるよう、別館で過ごします。

調理室



理科実験室



別館



多目的ホール



屋上運動場

